

## 令和元年度第2回返子市文化財保護委員会 会議録

日 時：令和元年10月11日（金） 午前10時～11時半

場 所：市庁舎5階 第4会議室

出席者：文化財保護委員

薄井和男委員長、手塚直樹委員長代理、相澤正彦委員

※欠席 伊藤一美委員、持田幸良委員

事務局

橋本社会教育課長、佐藤主幹、吉田主事

傍聴者：なし

### 議事概要

#### 開会

事務局挨拶、資料確認

薄井委員長 挨拶

### 1 報告

#### (1) 市指定重要文化財の指定について

事務局：市指定重要文化財の新規指定に関連し、9月議会の質疑の中で総合計画の中に位置づけられた大事なことであるから積極的に進めていくべきと議員の発言があった。我々としても計画に則り事務を進めていきたいと考えている。現在具体的な候補物件としては小坪のサンゴイソギンチャクと池子神明社の神輿があがっている。イソギンチャクは学術的評価については概ね問題ないが、指定にかかる保護や活用等の諸条件について、多岐にわたる関係者の理解と協力が得られるよう慎重に進めるべきと考えている。神輿については横浜国大の大野敏先生から写真による簡単な所見をいただいた。関口調査で江戸期の物とされており良いものとの印象を持つが、改変の程度がポイントであり、現地調査の必要性を示唆された。調査については宮司さんや氏子会の意向に十分配慮し時期を決めるよう助言もいただいた。

一方、氏子会から平成2年修理見積書が提出され修理項目が判明したため、これに基づきまずは鋳師に聞き取り調査を行った。総じて保存状態が良く、古材をなるべく活か

しながら傷んだ部分を補修したとの事で、金具類については比較的古い部材が残っている可能性があることがわかったが、心柱については記憶がないとの事。木地師にも近日中に面会できる予定である。

その後、聞き取り調査の結果を大野先生に報告、相談した上で、建築的見地から検討できそうであれば現地調査へと進めたいが、一方で民俗資料や歴史資料等のカテゴリーについても可能性を模索し、できるだけ地元の方々の意向に沿えればというのが事務局の考えである。

薄井委員長：文化財新規指定に理解を示す議員の発言は非常にありがたい。サンゴイソギンチャクについては保護と活用の諸条件をどう整理していくかが問題になってくる。神輿については聞き取り調査も進めつつ、指定に向けた一定の目安を検討してもらった。まだ時間は要するだろうが、あまり急がず慎重に取り組んだ方がよいだろう。

事務局：概ね江戸期のもので県内他例に比して遜色なければ逗子市にとって大事な文化財になると考えているが、仮に指定された後に祭礼で使用していいのか等の問題もある。一般に民俗資料としてなら使用可能であり、そのあたりの落としどころについては慎重に調整したい。

相澤委員：どの分野で進めるにしても最終的には専門家の調書が必要だ。指定後のことを考えると民俗が妥当かもしれないが、そうすると通常は祭礼も含めて考えなければいけない。まずは建築の大野先生の意見を伺い早めに方向性を出してもらいたい。

事務局：民俗の場合は祭礼の継続性も問われるので、保存団体、氏子会がどのように地域の中で祭りを継続させていくのか留意する必要がある。文化財という格付けにより地域の祭事が続いていけばそれはそれで良いことかと思う。

手塚委員：氏子としては祭礼の継続性はひとつの地域の共同体として重要で、昔と同じ雰囲気でも担ぎたいと考えるだろうから、その辺との兼ね合いが難しい。

事務局：来歴や真実性を厳密に突き詰めようとする指定が難しくなる。様々な見地から総合的に地域にとって大事なものだという評価ができるならその方向にもっていきたい。

薄井委員長：文化財を毎年きちんと増やしていくということが大事で、逗子には他にもいいも

のがたくさんあるので、今後も指定に向けて進めていってほしい。

## 2 その他

### (1) 逗子市郷土資料館について

事務局：逗子市郷土資料館の建物は、大正元年に建築されたと伝えられ、昭和 59 年度から郷土資料館として利用しているが、老朽化が進行しており、平成 30 年度から市の緊急財政対策に基づき休場している。元来文化財の収蔵展示施設として相応しくない建物で、来場者数も減少する中でこれを今後も維持し発展させていくことは難しく、資料館としての役割は一定程度果たしたと考えている。そのため、今年度をもって資料館としての利用を廃止したい。建物については逗子の別荘文化を偲ぶ遺構として国登録有形文化財建造物相当の価値は認められるものであるが、次の利活用については公園所管課が公園施設として検討していくことになる。明日 12 日に市民説明会を予定していたが、台風の接近に伴う荒天の影響で延期した。今後の文化財展示については、池子遺跡群資料館及び 2 か所のコミュニティーセンターでの展示の充実を念頭に対応していきたい。展示できない資料については、既存の収蔵スペースを整理し適切に保管していく。なお、中長期的には池子の森自然公園内に収蔵展示を含む体験学習施設を設置する計画があるが、関係機関との調整等もあって具体的にはなっていない。

薄井委員長：池子遺跡群資料館での展示はどうするのか。

事務局：現在は池子の出土品を通史的に多数展示しているが、これを少し厳選し他遺跡出土品のほか、文献資料関係および民俗的な資料も含め、館設置の趣旨を逸脱しない範囲でできるだけ展示していきたい。

薄井委員長：市民から博物館設置の要望はないのか。

事務局：池子米軍住宅建設で揺れていたころには市民団体から強い要望が度々寄せられていたが、近年はほとんどない。

相澤委員：色々なやり方があると思うが、例えば市民が郷土を学習できるスペースをコミュニティーセンターなどに設けることはできないか。

事務局：現状でも展示ケースが少しありスペースの拡充は難しいが、小学校の郷土資料室等も含め活用を検討したい。

相澤委員：児童生徒に限らず一般市民が利用できるよう、既存施設の改装も含めて考えるべき。

事務局：統廃合により使わなくなった校舎を利用しているところも各地にある。

薄井委員長：逗子高の校舎も考えられるかもしれない。

手塚委員：退職教員などにボランティアで協力してもらうなど、お金をかねないでもうまく活用できる方法も考えられるのでは。

薄井委員長：財政的に厳しいと閉塞感だけでなにもできなくなるので、今までやっていない新しい方法を考えることも必要だろう。

事務局：市施設の統廃合について現時点で具体的な話はない。デジタルミュージアム的なものも考えられようが初期投資も相応にかかるためすぐには難しい。

薄井委員長：今の郷土資料館がいざなくなってしまうとなると市民の認識も変わるかと思う。

相澤委員：資料館の存在は地域にとって文化的に大きな意味があり、お金には換算できないものである。なんとかしてどこかにそういった施設をおくべきだろう。

薄井委員長：逗子という地域に博物館がないというのはどうか、あって当たり前という感覚の人も多いと思う。

相澤委員：本委員会でも、必要であればなにがしかの形で意見表明するなど考えたほうが良いかもしれない。

## (2) 台風 15 号による被害について

相澤委員：台風 15 号で小坪のトンネル上斜面が崩落したそうだが、直上にあるまんだら堂やぐら群などに被害はなかったか。

事務局：鎌倉市内のハイキングコースは全面的に通行禁止となっているようだが、名越切通や長柄桜山古墳群周辺については多少の倒木以外に大きな被害はなく、我々で対処可能な程度で済んだ。しかし引き続き 19 号が接近しているので警戒している。

### (3) その他

事務局：一昨年から本委員会の先生方を講師として社会教育講座を年1回開催しているが、本年度は来る12月4日、伊藤先生に小坪の歴史についてお話していただくことになっている。次年度以降も引き続きご協力いただきたい。

閉会